

西光寺だより

第一六二号 令和六年 二月一日発行

元日の午後4時10分、石川・能登地方を中心に大きな地震が発生いたしました。

元旦会を終えご門徒の皆さまへの挨拶が終わり、例年通り穏やかなお正月を家族で迎えている時の事でした。

最初はふらつと自分自身が揺れたように思いましたが、表に出て鐘付き堂に目をやると鐘がゆらりと揺れているのに気付き地震だと確信したことであります。

それからのテレビの報道に、被害を受けた石川県の変わり果てた街並みを見ながら、心が締め付けられる思いでありました。

本山・社会部は、地震発生直後から震源地の石川教区などに被災状況の報告を依頼。被害を受けた各教区教務所から、報告が続いています。

石川教区では、本堂、庫裏や山門、鐘楼などの全壊や半壊、傾斜などのほか、津波で床上浸水の被害を受けた寺院もあり、またご門徒の皆さまにも被害が及んでいます。

この他、長野、国府、新潟、富山、高岡、福井、岐阜教区でも、本堂や庫裏などの傾斜、屋根瓦落下、内壁、外壁の剥落、内陣の本尊や仏具の落下による破損、墓石や灯籠の倒壊などの被害の報告が寄せられています。被害は1月14日現在、8教区377カ寺であります。

本山では、復旧支援隊を派遣しました現地緊急災害対策本部を設け、継続的な支援に入っています。

いっどうなるか分からない今をどのように過ごしてゆくか、いのちについて、災害について改めて考えたいと思います。

合掌

●今月のことば●

大きな視点で

見直せば

人生の意味が変わる

私たちは、いつの間にか作り上げた視点で、さまざまなものを受け止めて生きています。

その中で自分にとって都合の良いものは「役に立つ」といつて取り入れ、都合の悪いものは「役に立たない」といつて遠ざけようとしま

す。けれど自分の視点が、もし当てにならないのであれば、とらえていくものすべてを誤ったものとして、受け止めてしまうこととなりま

す。生まれてきた者は歳を重ね、痛んで、必ず命を終えていく。

この老病死の姿を、自分の役には立たないからといつて遠ざけることはできません。私たちは決して逃れることのできない老病死の命の営みの中を、いま生きていくからです。

役に立つ、立たない、良い、悪いとかという、小さな視点のなかで生きていく私に、仏さまの教えは、大きな視点で、ありのままの姿を見つめていくことの大切さを教えています。

老病死の命の営みには、何一つ無意味なものはない、そのことを教えてくださっています。

そのような命へのまなざしが与えられることによって、私たちはこの苦悩の人生を生きていく、確かな意味を、見出すことができるのです。

(本願寺新報)

2月28日（水曜日）、生涯学習センター きらめきホールにて、
茨木東組 親鸞聖人御誕生八五〇年 立教開宗八百年慶讃法要
 を、厳修致します。午後二時から開演で、**入場無料**であります。

茨木東組17カ寺の寺院が一同に会しお勤め、そしてご法話を聴聞し、女性だけのミュージカル劇団である、劇団音芽（おとめ）による親鸞聖人のご生涯をミュージカルでお送りいたします。

親鸞聖人がおられたからこそ、こうして皆さまとお出会いするができました。浄土真宗のみ教えは私たちのご縁をも繋いでいただいています。そんな思いで皆さまご参加いただけたら嬉しく思うことでもあります。

参加のお返事は、西光寺か、お速夜の際に伝えていただけるとありがたいと思います。よろしくお願い致します。



◆先月の報告◆

一月一日（月）西光寺本堂にて元旦会法要を厳修致しました。

一年の始まりにこうしてご門徒の皆さんとご一緒に、いつも見守って下さる阿弥陀さまへのご恩に対する感謝の気持ちをお参りさせていただきました。

新たな年を迎え、生かされていることに感謝して喜びも悲しみも日々、お念仏の中で過ごさせていただきましょう。
 仏事やご法事は、「つながりの中で生きている」ことに気づかせていただく大切な時間や場所であります。
 ともどもにお勤めいたしましょう。

